

India EV Market Trend Update 2024-July



INTAGE INDIA Pvt. Ltd.

* The copyright of this report is owned by Intage India Pvt. Ltd./ Intage group.

* In the event that damages or other troubles occur to the user or a third party due to the reprint or citation, Intage India Pvt. Ltd./ Intage group shall not be liable for it.

本資料の内容

目次

会計年度別のEV販売台数	P3
FY24 全体に占めるBEV/ハイブリッドの割合	P4
カテゴリー別販売台数比較	P5
会計年度別電動2輪車販売推移	P6
メーカー別販売シェア:FY24	P7
販売台数トップ5 EVブランド： 2024年7月期	P8
ハイブリッド車の販売台数及びEV車との比較： 2024年7月期	P9
EVに関する政策の動向	P10
4輪に関する政策 AUTO PLI 概要	P11
EV関連ニュース:2024年7月	P12

略称	用語
EV	Electric Vehicle（電動車）
ICE	Internal combustion engine（内燃機関）
FY	Financial year（会計年度）
FAME	Faster Adaptation Manufacturing of Electric Vehicle
EMPS 2024	Electric Mobility Promotion Scheme-2024
AUTO PLI	AUTO Production Linked Incentive

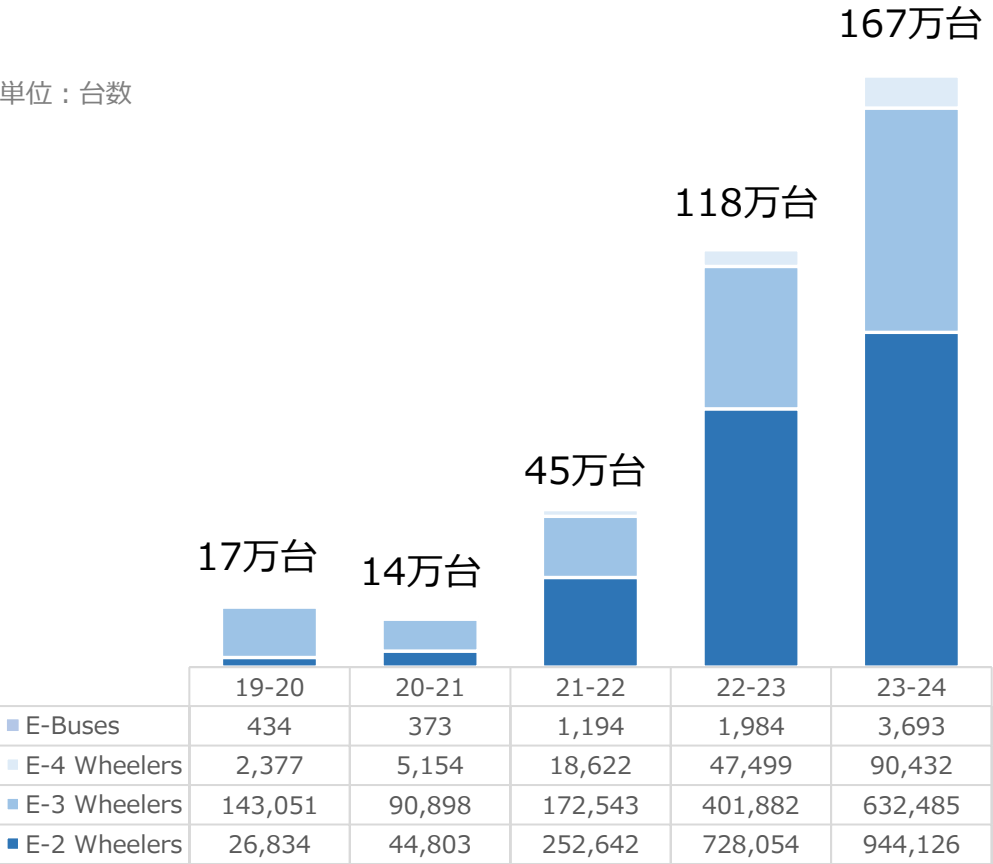
一部を除いて、2024年8月1日付で作成しております。

会計年度別のEV販売台数

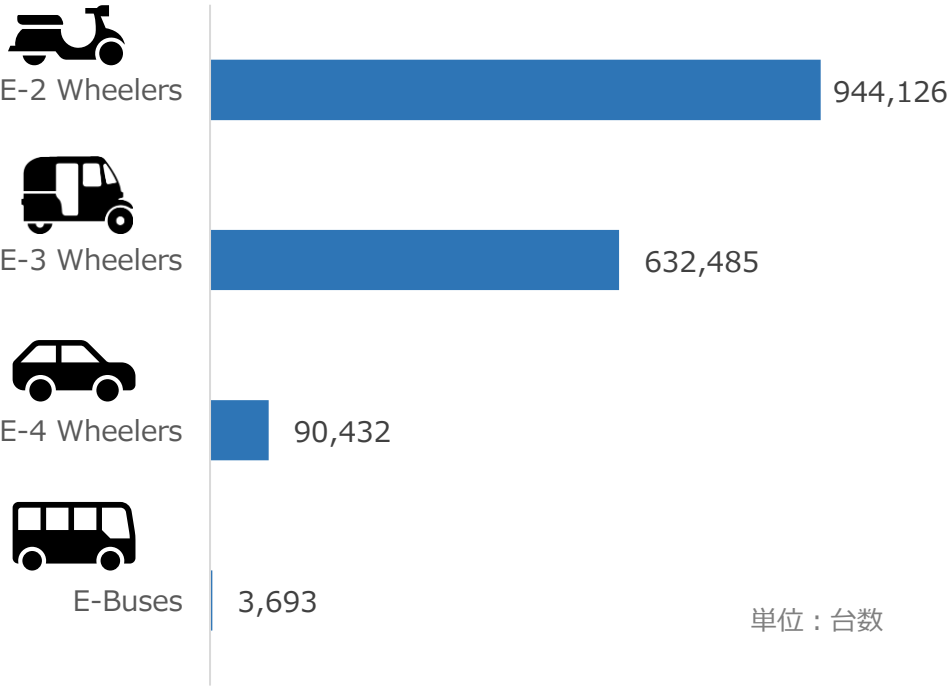
- インドEV市場においては、2輪と3輪の販売台数が大半を占めている。ICE車より少し初期費用は高いものの、ランニングコストの差額で初期費用を回収することが可能なためと考えられる。一方で、4輪の販売台数は10万台に満たない。

会計年度別販売台数

単位：台数



販売台数車両別：FY24

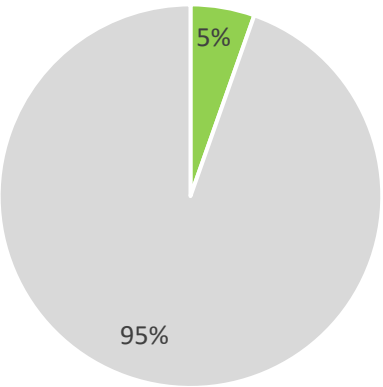


単位：台数

FY24 全体に占めるEV/ハイブリッドの割合

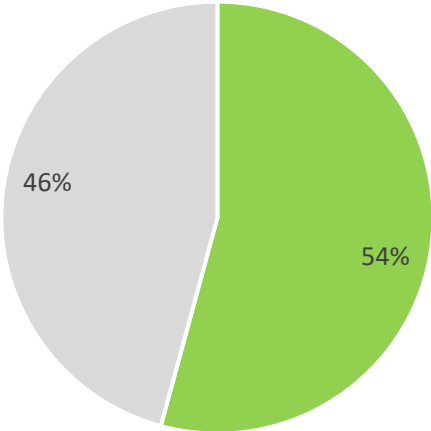
- 2-Wheelerと4-Wheelerの販売台数は上昇傾向にあるが、現時点ではガソリントップを含めた売上台数の割合では10%にも満たないのが現状である。
- 一方で、3-WheelerはEVの販売割合が50%以上となっており、EVが非常に多く販売されている。

2-Wheeler



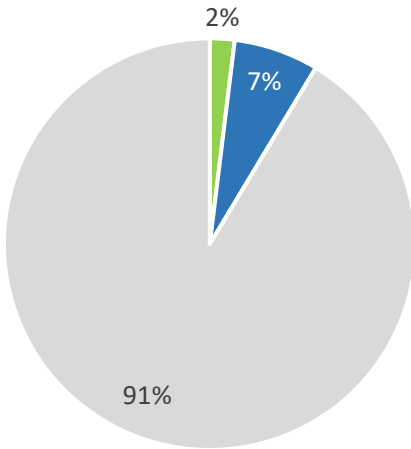
E-2-Wheeler Other

3-Wheeler



E-3-Wheeler Other

4-Wheeler

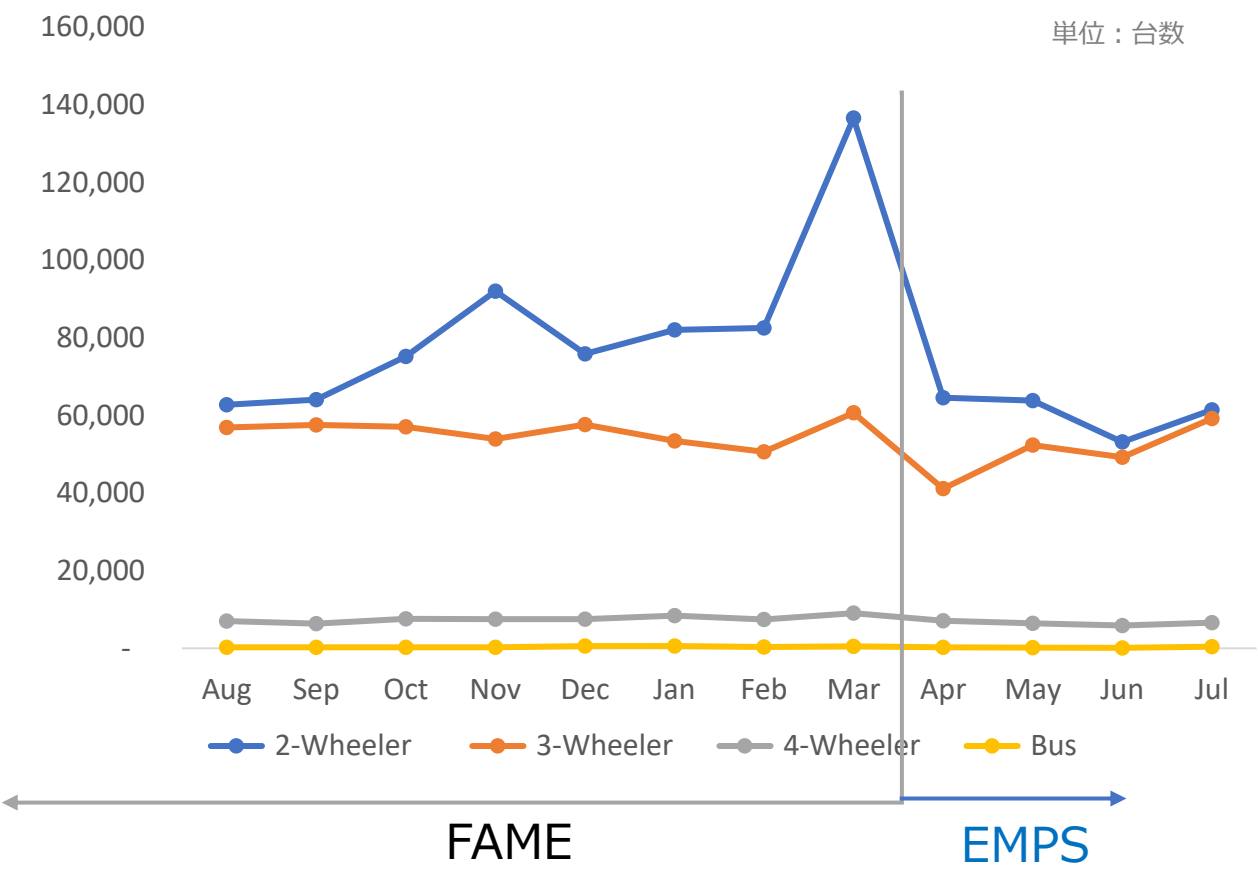


BEV Hybrid Other

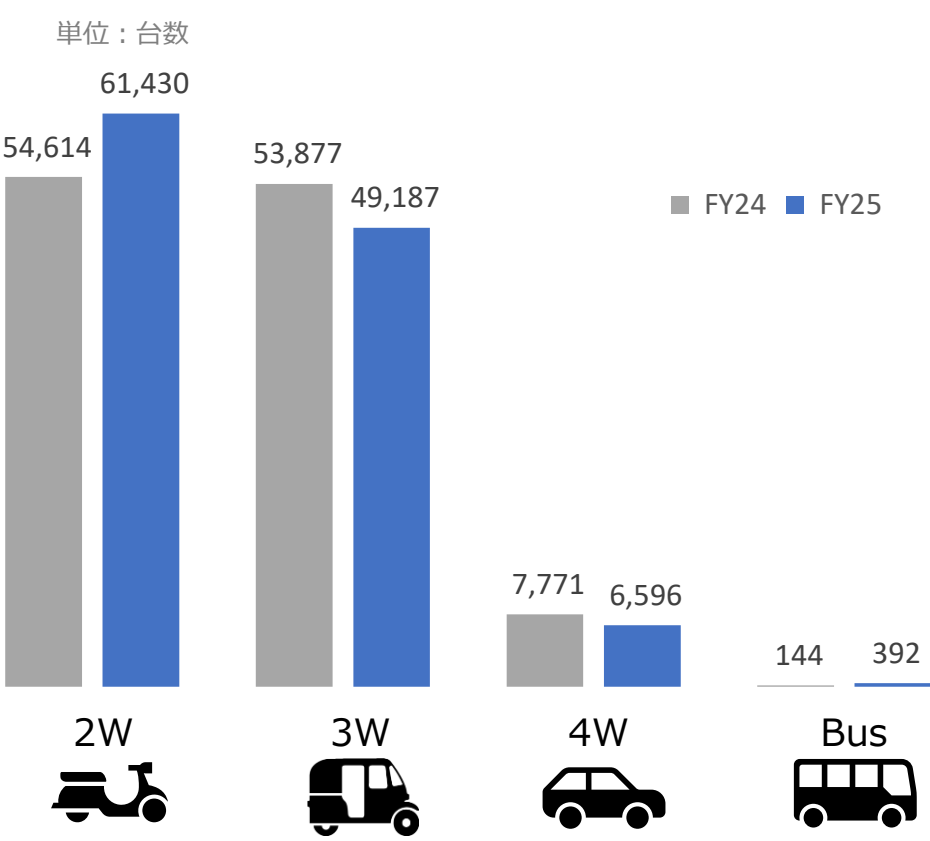
カテゴリー別販売台数比較

- 4輪の販売台数はやや下降気味である。この要因として、補助金がないことが考えられる。
- 2輪は昨年同時期よりも販売台数を伸ばしている。

過去1年間のカテゴリー別販売台数推移



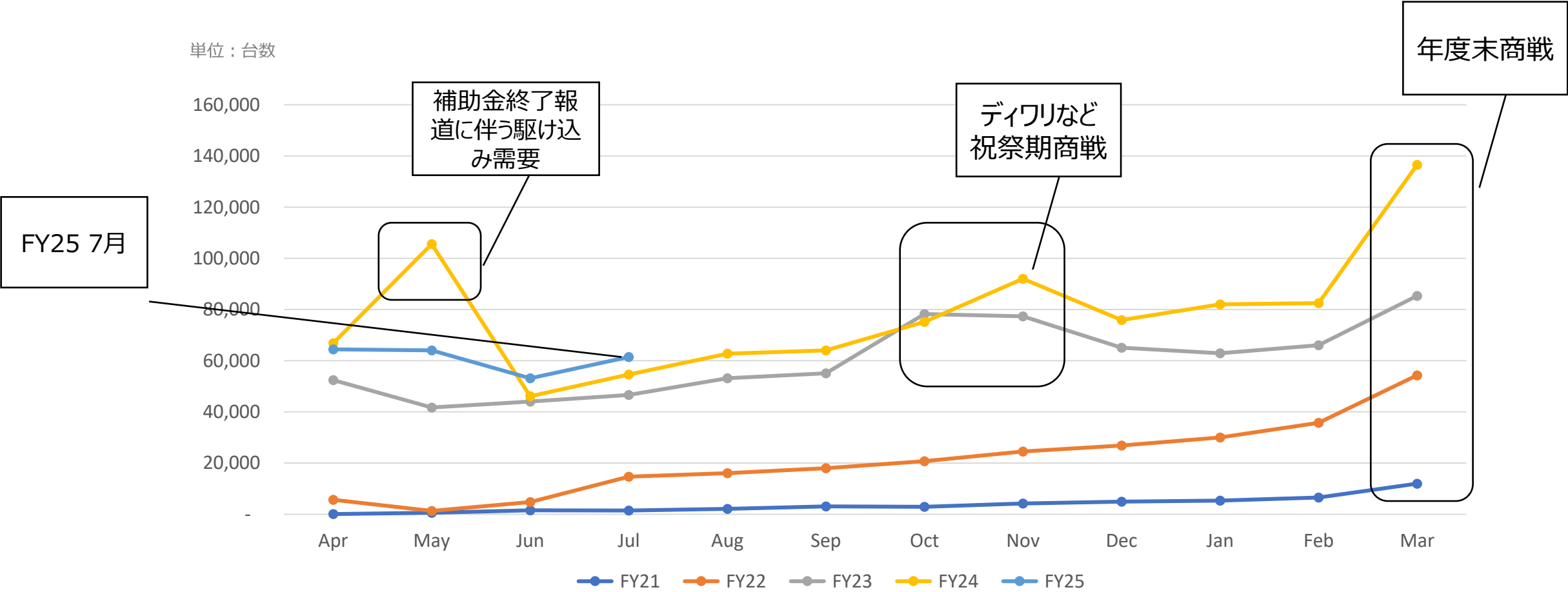
7月販売台数前年同月比：FY24 vs FY25



(出典) SMEV. <https://www.smev.in/statistics> (2024年 8月05日現在).

会計年度別電動2輪車販売推移

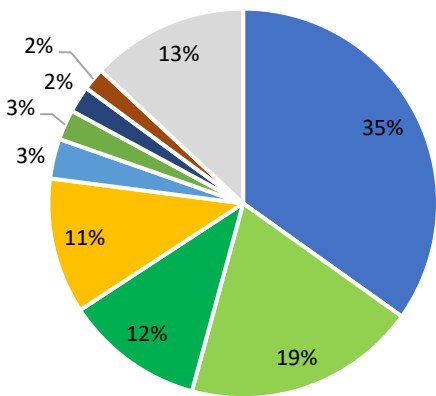
- 2輪カテゴリーは毎年販売台数を伸ばしており、FY24は一年間ほとんど全ての月で前年度を上回っている。
- インドにおける大きな商戦期は、祝祭期と年度末となっている。



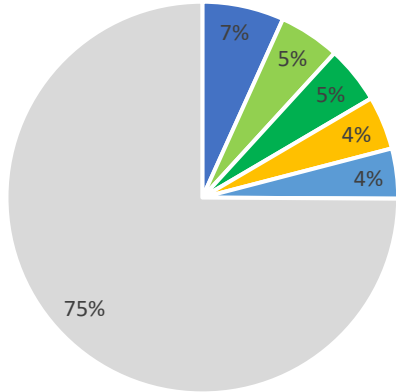
(出典) SMEV. <https://www.smev.in/statistics> (2024年8月05日現在).

メーカー別販売シェア: FY24

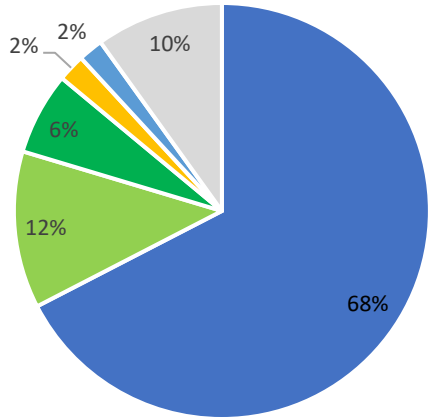
- 2輪は、OLAを筆頭にTVS, Ather, Bajajが続き、この上位4社で77%を占めている。
- 4輪は、現在ではTATAが市場シェアの3分の2を支配しており、続いてM Gモーター、マヒンドラとなっている。



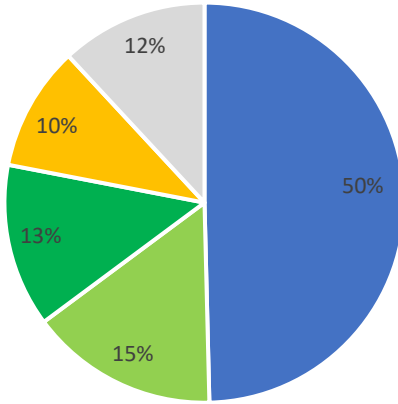
- OLA ELECTRIC
- TVS MOTOR
- ATHER ENERGY
- BAJAJ AUTO
- GREAVES ELECTRIC
- AMPERE VEHICLES
- OKINAWA AUTOTECH
- HERO MOTOCORP
- Other



- YC ELECTRIC VEHICLE
- MAHINDRA & MAHINDRA LIMITED
- SAERA ELECTRIC AUTO PVT LTD
- MAHINDRA LAST MILE MOBILITY LTD
- DILLI ELECTRIC AUTO PVT LTD
- Other



- TATA
- MG MOTOR
- MAHINDRA & MAHINDRA
- PCA AUTOMOBILES
- HYUNDAI MOTOR
- Other

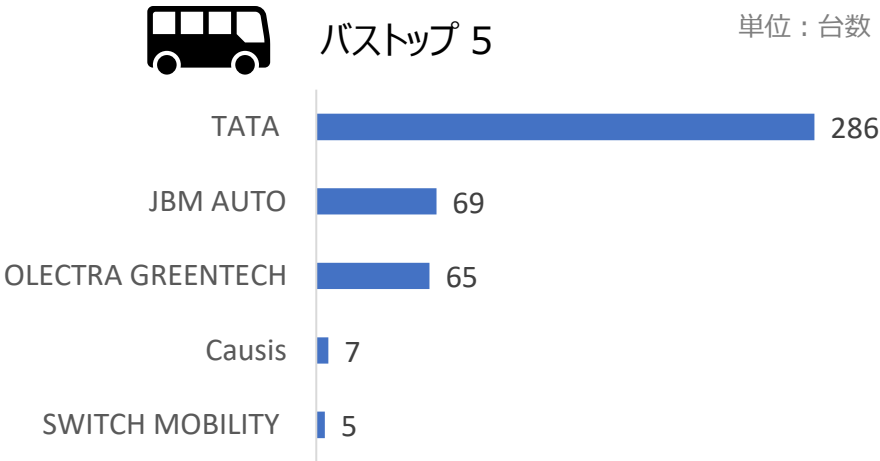
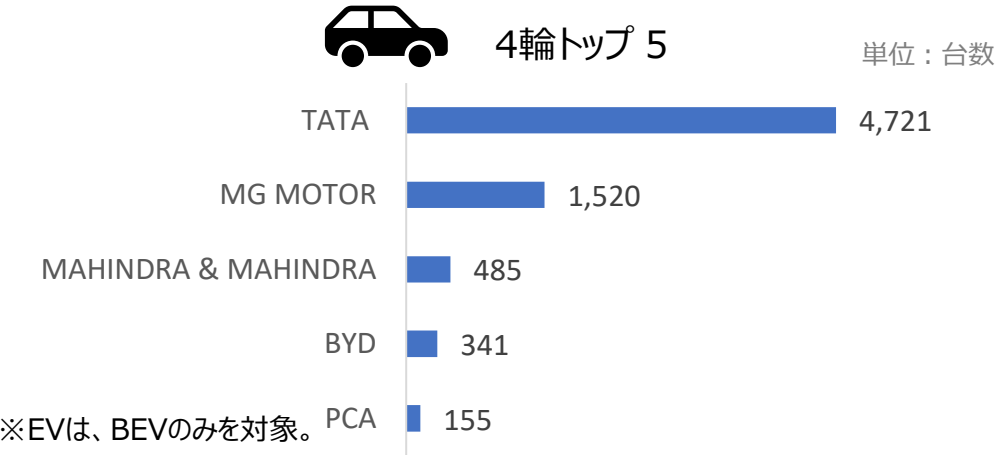
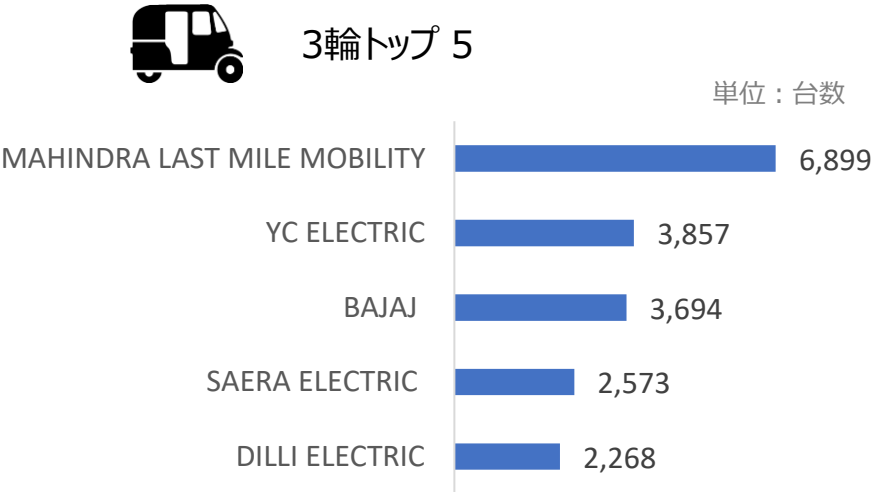
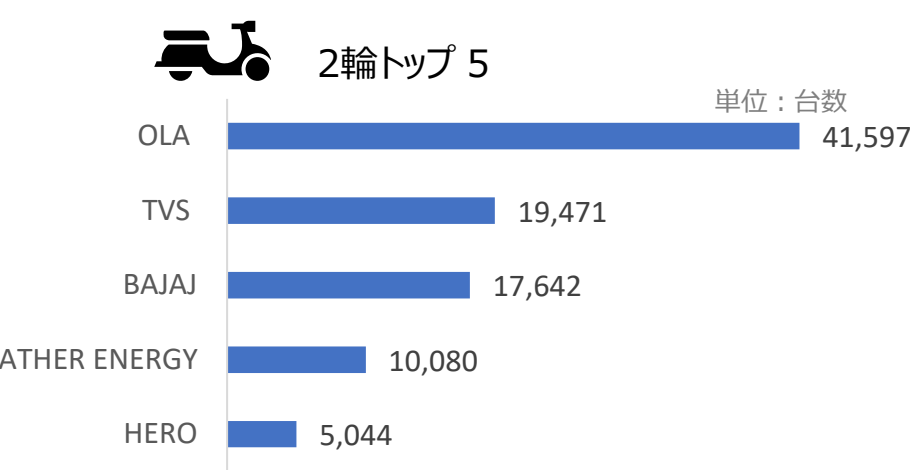


- TATA MOTORS LTD
- JBM AUTO LIMITED
- OLECTRA GREENTECH LTD
- PMI ELECTRO MOBILITY SOLUTIONS PRIVATE LIMITED
- Other

(出典) VAHAN. <https://vahan.parivahan.gov.in/vahan4dashboard/vahan/view/reportview.xhtml>

販売台数トップ5 EVブランド： 2024年7月期

- 2輪は、OLAが圧倒的な販売台数を誇っている。4輪はTATAが大きなシェアを占める。

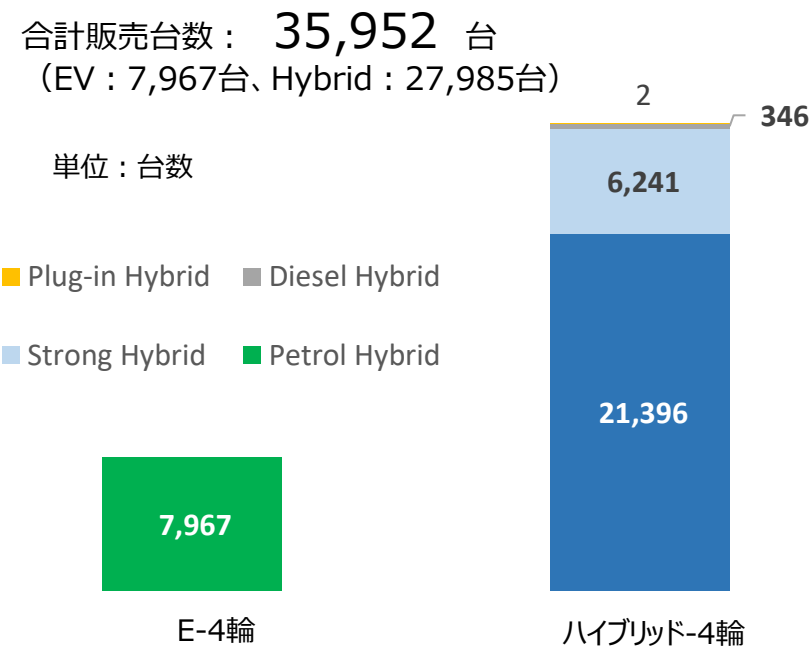


(出典) VAHAN. (2024年8月01日現在). <https://vahan.parivahan.gov.in/vahan4dashboard/vahan/view/reportview.xhtml>

ハイブリッド車7月度の販売台数及びEV車との比較

- EVとハイブリッド車の比較では、ハイブリッド車の販売台数を電動4輪を大きく上回っている。
- ハイブリッド車主力であるマルチ・スズキとトヨタが販売台数1位と2位であり、続いてEV主力のタタとなっている。現在のインドでは、ハイブリッド車が主流であるが、ストロングハイブリッド、プラグインハイブリッドは少ない。

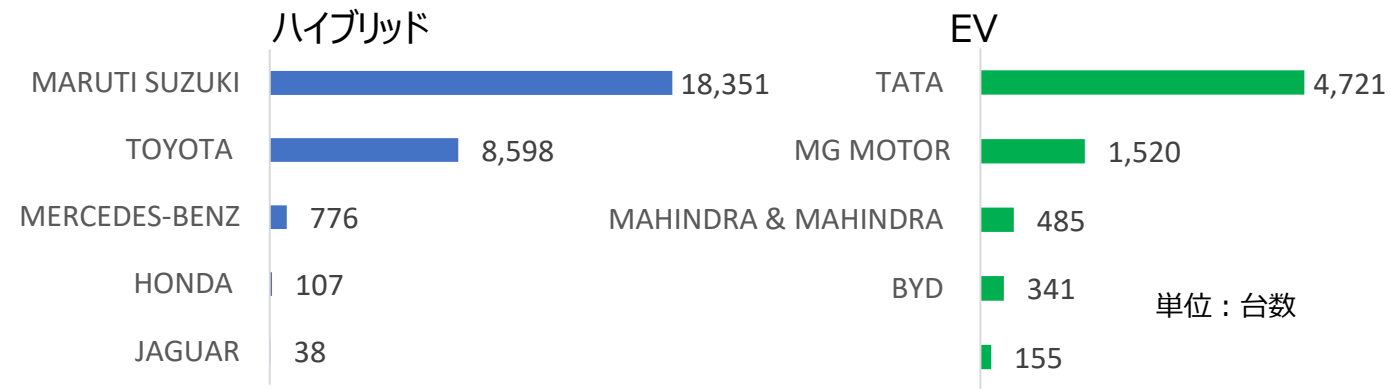
EVとハイブリッド販売台数比較



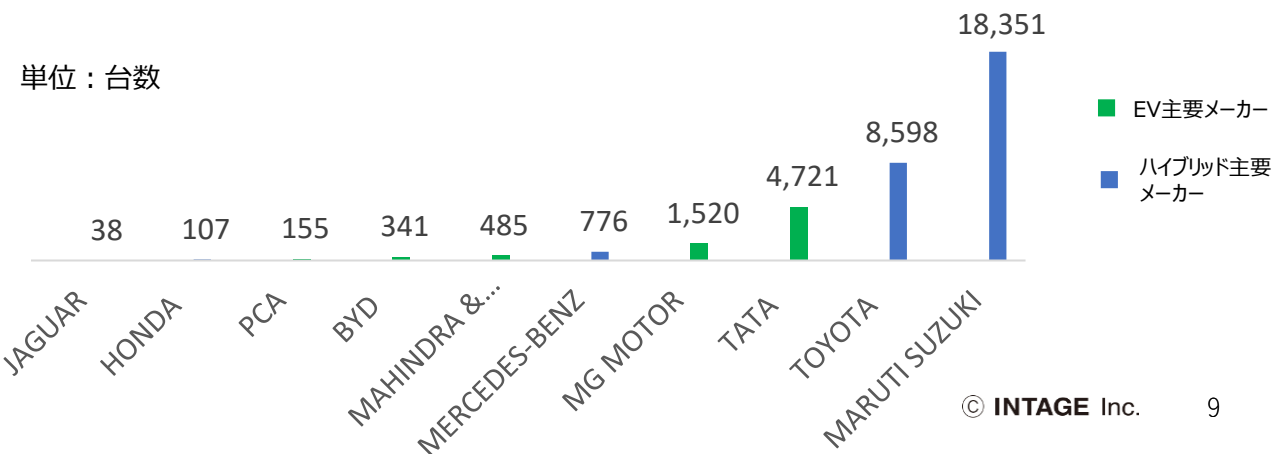
※ハイブリッドは、ディーゼルハイブリッド、ペトロールハイブリッド、プラグインハイブリッド、ストロングハイブリッドを含んでいます。

(出典) VAHAN (2024年8月01日現在).
<https://vahan.parivahan.gov.in/vahan4dashboard/vahan/view/reportview.xhtml>

メーカー別EVとハイブリッド販売台数比較



メーカー別EVとハイブリッド合計販売台数比較



EVに関する政策の動向

- 2023年3月31日付でFaster Adaptation Manufacturing of Electric Vehicle (FAME 2) が終了し、4月1日より政府主導のもと新しい政策 Electric Mobility Promotion Scheme-2024 (EMPS 2024) が開始された。
- FAME 2では、3年で計画され（最終的には5年）、2輪・3輪だけではなく4輪・バスも対象であり、1,000億ルピーの予算が投下された。一方で、EMPS2024では、4か月間の実施で、予算も50億ルピー、対象のEVカテゴリーは2輪と3輪だけの予定である。
- 4輪とバスについてはすでに実施されている、Auto PLIとPM-eBus Sewa Schemeで支援が継続されるとのことである。

	FAME 2	EMPS 2024
実施期間	3 年（最終的には5年） (2019年4月1日 - 2024年3月31日)	4か月 (2024年4月1日 - 2024年9月31日) 7月31日から2か月延長
予算	1,000億 ルピー (最終的には, 1,150億 ルピー)	50億ルピー (内、33億3,300万ルピーが、2輪に当てられる。)
対象車種	e-2輪, e-3輪, e-4輪 Strong Hybrid 4W, PHEV, e-Buses	e-2輪 ・ e-3輪
消費者向け補助金額	購入補助金額 10,000 ルピー/kWh バスを除くすべての車種（車両価格の20%まで） 20,000 ルピー/kWh バス（車両価格の40%） インセンティブ総額の目安 2輪：20,000 ルピー 3輪 (e-リキシャーを含む): 50,000 ルピー 4輪：15,000ルピー	購入時補助金額 5,000ルピー/kWh for e-2輪 ・ e-3輪 インセンティブ最大額（もしくは、工場出荷額の15%のどちらか低い方） 2輪: 10,000 ルピー - E-リキシャー ・ e-カート: 25,000 ルピー - E-3輪 (L5 カテゴリー): 50,000 ルピー
メーカー向け補助金	メーカーは販売奨励金として、払い戻しを受ける。	メーカーは販売奨励金として、払い戻しを受ける。
国内製造要件	- 製造の国内化 - Phase manufacturing Program (PMP) が適用される。	- 製造の国内化 - Phase manufacturing Program (PMP) が適用される。
充電ステーションの設置	充電ステーションの設置支援	計画されていない。

(出典) Ministry of Heavy Industries
<https://heavyindustries.gov.in/sites/default/files/2024-03/emps-2024.pdf>
https://fame2.heavyindustries.gov.in/content/english/11_1_PolicyDocument.aspx

4輪に関する政策 AUTO PLI 概要

- EV完成車メーカー・先進部品メーカーを対象にした生産連動型補助金のスキームとなっており、インセンティブ率などが異なる。

項目	OEM向けインセンティブスキーム	コンポーネント企業向けインセンティブスキーム
対象製品	- 電池電気自動車完成車 - 水素燃料電池車完成車	- 先進の自動車技術を使った部品 - CKD/SKDキット - 車両アグリゲート
条件	OEM - グローバルグループ収益（自動車および/または自動車部品製造による）：1,000億ルピー - 投資：当社またはそのグループ会社による固定資産(総額) 3,00億ルピーの投資。 - 最低国内新規投資条件あり。	部品 - グローバルグループ収益（自動車および/または自動車部品製造による）：50億ルピー - 投資：当社またはそのグループ会社による固定資産(総額) 15億ルピーの投資。 - 最低国内新規投資条件あり。
インセンティブ率	販売額の13~16%	販売額の8~11%
追加インセンティブ	累計1,000億ルピー超で+2%	- 累計125億ルピー超で+2% - 電気自動車/水素燃料電池車向けに+5%
その他条件	- 国内付加価値50%以上 - 翌年以降10%以上の売上増が必要	

(出典) myscheme. <https://www.myscheme.gov.in/schemes/plisaaci#eligibility>

EV関連ニュース:2024年7月

・ インドのEV 4 Wのオーナーの51%が次はICE車に戻りたい

4WのEV所有者の約51%が、2台目のEVは購入せず、ICE車の所有に戻りたいと感じている。理由は、業界でEVのリセールの取り扱いが普及しておらず、現在EVのリセールバリューは消費者が認識している価格より低いことが要因であるという。また、インドのオーナーは、航続距離の不安より、機能する充電ステーションを見つけることが最大の不安であった。インドでは、しばしば充電ステーションを見つけても機能していないことが多々ある。

[Electric Vehicles: Survey finds 51% Indian e-car owners want to return to ICE vehicles, ET Auto \(indiatimes.com\)](https://www.thehindu.com/news/cities/Hyderabad/ev-charging-hub-opened-near-hyderabad-airport/article68454396.ece)

・ 政府はEMPSを2か月間延長し、予算は77.8億円に拡大

電気自動車促進スキームが9月30日まで2ヶ月延長され、支出は77.8億インドルピーに増加した。この延長は、FAMEスキーム第3版の最終決定の遅れによるものである。EMPSは、二輪車と三輪車を含む56万台以上の電気自動車をサポートするものである。

[Electric Vehicle Promotion Scheme: Government extends EMPS by 2 months, increases funding to INR 778 crore, ET Auto \(indiatimes.com\)](https://www.thehindu.com/news/cities/Hyderabad/ev-charging-hub-opened-near-hyderabad-airport/article68454396.ece)

・ 2輪大手OLAは8月2日にIPOを開始。

2017年に創業、電動二輪車メーカーOLAエレクトリックは、8月2日IPOを開始する。550億を上限とする新規株式の売り出しと、プロモーターと既存株主による8,49,41,997株を上限とする株式売り出し（OFS）で構成される。返済または前払い、研究および製品開発、一般的な企業目的のために支出する資本支出に充当されるとのことである。

[Ola Electric Mobility IPO price band announced, opens on August 2: 10 points - Hindustan Times](https://www.thehindu.com/news/cities/Hyderabad/ev-charging-hub-opened-near-hyderabad-airport/article68454396.ece)

・ ハイデラバード空港近くに最大級のEVステーションハブ

EV用充電設備オペレーターであるGLIDAは、ハイデラバードに102台充電可能な充電ハブを設置した。この規模の充電ステーションハブは、利用者に新たな安心感を与え、電気自動車を導入する動機付けとなるとしている。

<https://www.thehindu.com/news/cities/Hyderabad/ev-charging-hub-opened-near-hyderabad-airport/article68454396.ece>

・ ウットラプラデシュ州は、ストロングハイブリッド車の登録税の全額免除。

ウットラプラデシュ州は、7月5日に出された政策で、ストロングハイブリッド車に対する登録料の100%を免除する。この政策では、マルチ・スズキ、トヨタ、ホンダといった日経に企業に恩恵をもたらす。

[Zero Registration Charges For Strong Hybrid Cars In Uttar Pradesh, Expect Huge Price Cuts - BT TV BusinessToday](https://www.thehindu.com/news/cities/Hyderabad/ev-charging-hub-opened-near-hyderabad-airport/article68454396.ece)

・ FAME3は計画されているが、承認は下りていない。

7月に行われた予算案では、EVセクターへの補助金などについて直接的な言及はなかった。ET AUTOによると、EVに補助金を提供し続けるFAMEスキームの第3版が計画されているが、まだ首相官邸の承認は得られていないという。この関係者は、FAMEの新版には初めてエトラックが含まれる可能性が高く、そのための予算支出は、今年3月31日に終了した同制度の第2版と同程度になる可能性がある」と述べた。

[Budget 2024-25 For EV Sector: EV sector gets no direct benefits in the Budget, FAME III yet to be finalised, ET Auto \(indiatimes.com\)](https://www.thehindu.com/news/cities/Hyderabad/ev-charging-hub-opened-near-hyderabad-airport/article68454396.ece)



Create Consumer-centric Values

お客様企業のマーケティングに寄り添い、共に生活者の幸せを実現する

Contact

info-india@intage.com